

学校基本情報

1、学校の概要、目標及び計画

(1) 建学の精神

開校以来、常に音楽・楽器業界と太いパイプを持ち、「業界の人材ニーズ」に応える形で、「音楽・楽器業界で役立つ人材を育成する」ことを目的とする。

(2) 教育理念・校訓

豊かな人間性
確かな知識・技術の習得
克己心

この三点を重視した教育活動を日々推進していく。

(3) 理事長及び校長名、所在地、連絡先等

学校法人中部学園 理事長 角堀 雅信
中部楽器技術専門学校 校長 角堀 雅信
(所在地) 〒466-0027 愛知県名古屋市昭和区阿由知通3丁目13番地の6
(連絡先) TEL 052-741-6788 FAX 052-741-6789
(ホームページ) www.chubugakki.ac.jp

(4) 学校の沿革

昭和54年11月	ピアノ調律師養成学校開校準備のため設立。名称 中部ピアノ調律専門学院
昭和55年4月	中部ピアノ調律専門学校を開校
	所在地 名古屋市昭和区御器所通3-2
昭和56年4月	中部ピアノ技術専修学校に改名、愛知県認可。
昭和62年4月	学校本部を名古屋市昭和区石仏町1-1へ移転
	ピアノ調律、管楽器リペア、ギタークラフトコースの3分野とする。
平成元年4月	校名を中部楽器技術専門学校と改名。
	学校本部を、名古屋市昭和区阿由知通3-13-6に置く
平成11年4月	ピアノ調律、管楽器リペアを学科、ギタークラフトコースを弦楽器製作科として設置変更。
平成13年4月	弦楽器製作科にバイオリン修理&製作コースを新たに設置。
平成16年4月	楽器総合学科を新設。
平成18年7月	三重県湯の山に研修施設を導入。
平成25年4月	学校法人中部学園を設立。
平成29年9月	名古屋市昭和区御器所通2丁目に新校舎が完成。
平成31年3月	名古屋市昭和区阿由知通3丁目に新本部棟が完成。

(5) その他の諸活動に関する計画

(学校安全計画) 毎年避難訓練を計画、実施。
防災用備品の備蓄を行い、非常時に備えている。

2、各学科の教育等

(1) 入学者に関する受入れ方針及び収容定員、在校生数

本校の課程、学科、及び修業年限並びに定員は、以下のとおりです。

分野	課程	学科名	修業年度	入学定員	総定員	昼夜
文化教養	専門課程	ピアノ調律科	2年	30名	60名	昼
		管楽器リペア科	2年	30名	60名	昼
		弦楽器製作科	2年	30名	60名	昼
		音楽サービス創造学科	3年	36名	108名	昼
合計			126名	288名		

ア) 入学資格

本校の入学資格は、高等学校卒業又は、これと同等の学力がある男女とする。
本校の入学には、特待生制度を設ける。

イ) 学科別在校生徒

令和2年5月1日現在

分野	課程	学科名	総定員数	在校生数
文化教養	専門課程	ピアノ調律科	60名	58名
		管楽器リペア科	60名	108名
		弦楽器製作科	60名	11名
		音楽サービス創造学科	108名	80名
			288名	257名

(2) カリキュラム

教育課程表

ピアノ調律科

科目区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年	授業時数 総 合 計 (単位)	
			年間授業時 間数	年間授業時 間数		
必修専門科目	調律実技(基礎)	実技	134		4	134
	調律実技(割振Ⅰ)	実技	76		2	76
	調律実技(割振Ⅱ)	実技		40	1	40
	調律実技(オクターブ・ユニゾンⅠ)	実技	312		10	312
	調律実技(オクターブ・ユニゾンⅡ)	実技		60	2	60
	調律実技(4Hz変更1台仕上Ⅰ)	実技	130		4	130
	調律実技(4Hz変更1台仕上Ⅱ)	実技		230	7	230
	GP調律	実技		110	3	110
	UP整調(基礎)	実技	82		2	82
	UP整調(応用)	実技	28	64	3	92
	GP整調	実技	18	56	2	74
	基本修理	実技	110		3	110
	応用修理	実技		62	2	62
	リビルド	実技		70	2	70
	調律理論	講義	28	16	2	44
	整調理論	講義	34	40	4	74
	修理理論	講義	34	30	4	64
	業界ビジネス	講義	52	34	5	86
	ピアノ演奏	実技	6	5	2	11
	総合実践力	講義		30	2	30
	総合実践力(実技)	実技		40	1	40
必修教養科目	楽器知識	講義	48		3	48
	音楽教養	講義	44	20	4	64
	国際音楽情報知識	講義		44	2	44
	音楽美学(特別講義)	講義	8	8	2	16
	ホームルーム	講義	60	60	2	120
	ビジネスコミュニケーション	講義	40	8	3	48
選択専門科目	卒業前研修	実技		160	5	160
専門科目授業時数			1044	887	67	1931
教養科目授業時数			200	140	16	340
選択専門科目授業時数				160	5	160
卒業に必要な授業時数			1244	1027	83	2271
年間授業日数			210	200		

教育課程表

管楽器リペア科

科目区分	授 業 科 目	講義 実技 別	1年	2年	授業時数	
			年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	総 合 計 (単位)	
必修 専門 科目	クラリネット調整・メンテナンス	実技	96	66	5	162
	クラリネットタンポ交換	実技	88	44	4	132
	フルート調整・メンテナンス	実技	40	83	4	123
	フルートタンポ交換	実技	88	47	4	135
	サクソフーン調整・メンテナンス	実技	54	93	4	147
	サクソフーンタンポ交換	実技	88	45	4	133
	木管総合修理	実技	40	48	2	88
	金管修理ⅠⅡ(メンテナンス)(溶接)	実技	90		3	90
	金管修理Ⅲ(凹出し)	実技	80		2	80
	金管修理ⅣⅤ(抜差管調整)(ピストン調整)	実技	60		2	60
	金管修理Ⅵ(トロンボーンスライド調整)	実技		60	2	60
	金管修理Ⅶ(ホルンロータリー調整)	実技	60		2	60
	金管修理Ⅷ(部品交換)	実技		80	2	80
	金管修理Ⅸ(総合修理)	実技		122	4	122
	楽器演奏FL	実技	2		1	2
	楽器演奏CL	実技	2		1	2
	楽器演奏SAX	実技	2		1	2
	木管修理理論	講義	88	58	9	146
	金管修理理論	講義	62	66	8	128
	管楽器学	講義	60		4	60
必修 教養 科目	演奏知識	講義		54	3	54
	業界ビジネス	講義	30	30	4	60
	商品知識	講義	30	30	4	60
	楽器知識	講義	34		2	34
	音楽教養	講義	44	20	4	64
	音楽美学(特別講義)	講義	8	8	2	16
	ホームルーム	講義	60	60	2	120
選択 専門 科目	ビジネスコミュニケーション	講義	40	8	3	48
選択 専門 科目	卒業前研修	実技		160	5	160
専門科目授業時数			1060	926	79	1986
教養科目授業時数			186	96	13	282
選択専門科目授業時数				160	5	160
卒業に必要な授業時数			1246	1022	92	2268
年間授業日数			210	200		

教育課程表

弦楽器製作科ギタークラフトコース

科目区分	授業科目	講義 実技 別	1年	2年	授業時数	
			年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	総 合 計 (単位)	
	ボルトオンギター製作Ⅰ(塗装)	実技	60		2	60
	ボルトオンギター製作Ⅱ(セットアップ)	実技	60		2	60
	ベース製作Ⅰ(ボディ加工)	実技	80		2	80
	ベース製作Ⅱ(ネック加工)	実技	128		4	128
	ベース製作Ⅲ(塗装)	実技	38		1	38
	ベース製作Ⅳ(セットアップ)	実技	36		1	36
	レスポール製作Ⅰ(ボディ加工)	実技	80	20	3	100
	レスポール製作Ⅱ(ネック加工)	実技	68	14	2	82
	レスポール製作Ⅲ(塗装)	実技		30	1	30
	レスポール製作Ⅳ(セットアップ)	実技		36	1	36
	アコースティック製作Ⅰ(ボディ加工)	実技		140	4	140
	アコースティック製作Ⅱ(ネック加工)	実技		80	2	80
	アコースティック製作ⅢⅣ(塗装)(セットアップ)	実技		30	1	30
	卒業製作Ⅰ(ボディ加工)	実技		120	4	120
	卒業製作Ⅱ(ネック加工)	実技		80	2	80
	卒業製作Ⅲ(塗装)(セットアップ)	実技		60	2	60
	刃物研ぎ・鉋台調整	実技	114		3	114
	治具工具製作	実技	70		2	70
	設計・製図	実技	94	106	6	200
	リペア	実技	80	80	5	160
	製作理論	講義	58	42	6	100
	構成論	講義	30	30	4	60
	リペア理論	講義	12	12	1	24
	電気理論	講義	40	40	5	80
	業界ビジネス	講義	40	20	4	60
必修 教養 科目	楽器知識	講義	54		3	54
	音楽教養	講義	40	20	2	60
	ホームルーム	講義	60	60	2	120
	ビジネスコミュニケーション	講義	40	8	3	48
選択 専門 科目	卒業前研修	実技		160	5	160
専門科目授業時数			1088	940	70	2028
教養科目授業時数			194	88	10	282
選択専門科目授業時数				160	5	160
卒業に必要な授業時数			1,282	1,028	80	2,310
年間授業日数			210	200		

音楽サービス創造学科

科目区分	授 業 科 目		第1学年	第2学年	第3学年		授業時数 総 合 計 (単位)	
		講義 実技 別	年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	年間授 業時間 数	コース選択 授業時数合 計		
必修専門科目	鍵盤楽器概論	講義	60	20			5	80
	鍵盤実技	実技	20	100			4	120
	管打楽器概論	講義	60	20			5	80
	管打楽器実技	実技	20	100			4	120
	弦楽器概論	講義	60	20			5	80
	弦楽器実技	実技	20	100			4	120
	楽器演奏	実技	80	80			5	160
	小物楽器知識	講義	48	32			5	80
	舞台実務	講義	108	108			7	216
	舞台実務(実技)	実技						
	DTM	実技		60			2	60
	アートプロデュース	講義	48	32			5	80
	基礎技術	実技	120				4	120
	必修教育科目	音楽教養Ⅰ	講義	48				3
音楽教養Ⅱ		講義		20			1	20
ビジネス概論Ⅰ		講義	48				3	48
ビジネス概論Ⅱ		講義		56			3	56
英会話		講義	60	60			8	120
音楽著作権		講義		32			2	32
小売販売知識		講義	48				3	48
経営戦略思考		講義			32		2	32
ホームルーム		講義	60	30	30		3	120
音楽概論Ⅰ		講義	48				3	48
音楽概論Ⅱ		講義		48			3	48
ビジネスコミュニケーション		講義	20	20			2	40
コース選択(専科)科目	ピアノ調律実技	実技			600	800	20	600
	ピアノ調律理論	講義			200		13	200
	管楽器リペア実技	実技			600	800	20	600
	管楽器リペア理論	講義			200		13	200
	ウァイオリンリペア実技	実技			600	800	20	600
	ウァイオリンリペア理論	講義			200		13	200
	ギターリペア実技	実技			600	800	20	600
	ギターリペア理論	講義			200		13	200
	※各コース800時間 合計33単位とする							

コース選択(副科)科目	鍵盤楽器	講義			16		1	16
	管楽器	講義			16		1	16
	打楽器	講義			16		1	16
	ソルフェージュ	講義			16		1	16
	舞台実務(応用①)	実技			32		1	32
	舞台実務(応用②)	講義			16		1	16
	アートプロデュース(Ⅲ)	講義			32		2	32
	アートプロデュース(Ⅳ)	講義			16		1	16
	LM商品知識	講義			16		1	16
	DTM(応用)	講義			16		1	16
	弦楽器	講義			16		1	16
	硬筆習字	実技			32		1	32
	ビジネス・スキル	講義			16		1	16
	※副科は3科目必須のこと。							
選択専門科目	卒業前研修	実技			160		5	160
必須専門科目授業時数			644	672	0		55	1316
必須教養科目授業時数			332	266	62		36	660
コース選択(専科)科目授業時数					800		33	800
コース選択(副科)科目授業時数					(48)		3	(48)
選択専門科目授業時数					160		5	160
卒業に必要な授業時数			976	938	910		127	2,824
年間授業日数			210	200	200			

(3) 進級、卒業の要件等

ア) 進級について

当該学年において、定められた単位をすべて修得したものに進級を認める。

イ) 卒業について

学校が定めた単位すべてを修得したものに、卒業を認め、卒業証書を授与する。

(4) 学習の成果として取得を目指す資格

【ピアノ調律科】

*ピアノ調律技能検定3級 (一般社団法人 日本ピアノ調律師協会 主催)

【音楽サービス創造科】

*舞台機構調整技能士 (都道府県職業能力開発協会 主催)

(5) 資格取得、検定試験合格等の実績

【ピアノ調律科】

*ピアノ調律技能検定3級 2年度検定なし

【音楽サービス創造科】

*舞台機構調整技能士3級 受験者数10名 合格者10名 合格率100%

(6) 卒業者数、卒業後の進路

ア) 令和2年度卒業者数 95名

イ) 令和2年度進路状況 就職74名

ウ) 令和元年度主な就職先

(株)河合楽器製作所/(株)寺田楽器/名古屋ピアノ調律センター/(株)第一楽器

マックコーポレーション/(株)コメ兵/宮地楽器/ミヤザワフルート/

ドルチェ楽器/(資)中善楽器/(有)小沢鉄工所/野中貿易

3、教職員

教員		職員		計
本務	兼務	本務	兼務	
12	19	9	1	41

4、キャリア教育活動・教育環境

(1) キャリア教育への取組状況

学生の就職支援の一環として、キャリア教育の更なる充実・向上を図っている。

○教員のキャリア教育（キャリアサポーター研修）への参加。

○教員のポートフォリオ作成勉強会

○キャリアワーク授業のカリキュラム組み込み。

○全学生対象のポートフォリオ

(2) 実習・実技等の取組状況

就職後の即戦力に向け実践的授業となるインターン実習に力を入れている。

○ピアノ調律科：大学からの依頼による大学内のピアノの調律

⇒45台のピアノ調律を実施。

○管楽器リペア科：企業（楽器店）と連携した「学校訪問修理」の実施。

⇒8校で398本の管楽器を修理。

5、様々な教育活動・教育環境

(1) 学校行事への取組状況

学校行事への取組状況

月	学校行事
4月	入学式
5月	健康診断
6月	新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの行事を中止
7月	
8月	
9月	
10月	健康診断
11月	
12月	
1月	楽器博物館・ヤマハの見学
2月	
3月	卒業式

(2) 課外活動

※新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず。

(3) 地域貢献活動

※新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず。

(4) 教育環境

- ・湯の山研修センター
- ・各学科専用の実習室
- ・専門分野を中心とした図書・ライブラリアン
- ・調律トレーニング防音BOX
- ・音響スタジオ

6、学生の生活支援

- ・クラス担任制によりきめ細かな学生サポート、指導を実施。
- ・保護者宛てに、今後の予定、出席状況ならびに学期ごとの成績表の送付。
- ・遠方の入学生に対し学園推奨のアパートを紹介。
- ・就職指導担当は、就職先の開拓を毎年行い、卒業生の活躍の場を広げている。

7、学生納付金・就学支援

(1) 学生納付金

区分	文化教養専門課程			
	ピアノ調律科	管楽器リペア科	弦楽器製作科	音楽サービス創造学科
授業料(月額)	60,000	60,000	60,000	55,000
入学料	300,000	300,000	300,000	300,000
入学検定料	20,000	20,000	20,000	20,000
教育充実費(年額)	240,000	280,000	270,000	220,000
施設費(年額)	330,000	330,000	330,000	220,000

- ・全学科とも、自己所有の工具やオリジナルテキスト・制服代等が別途必要。
¥150,000～¥200,000程度。(楽器総合学科は¥80,000程度)
- ・各工場見学や合宿研修などの交通費や学生保険、卒業アルバム制作などの目的に、
積立金として、全学科とも年間¥80,000(前期分¥40,000、後期分¥40,000)
が別途必要。

【納入時期】

- ・AO入試、推薦入試合格者
合格発表から2週間以内。
- ・一般入試合格者
合格発表から1週間以内。

(2) 特待生制度

- ア、AO入試特待生制度
- ①後期授業料30万円免除
- ②後期授業料20万円免除
- ③後期授業料10万円免除

(3) 就学支援

- ア、日本学生支援機構奨学金
- イ、各種教育ローン
- ウ、オリエントコーポレーションの学費サポートローン
- エ、ジャックスの学費サポートローン

8、学校の財務

令和元年度財務計算書類のうち下記のことを本校ホームページに公表しております。

- ・資金収支計算書
- ・消費収支計算書
- ・貸借対照表

9、学校評価

(1) 自己評価

令和元年度学校自己評価報告書を本校ホームページにて公表しております。

(2) 学校関係者評価

令和元年度学校関係者評価を本校ホームページにて公表しております。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																			
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																			
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																		
文化・教養	文化教養専門課程	ピアノ調律科	平成六年文部科学省 告示第84号																			
学科の目的 楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																						
認定年月日 平成27年2月17日																						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																
2 年	昼間	2271時間	638時間	0	0	0																
単位時間																						
生徒総数	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																	
60人	47人	4人	3人	3人	6人																	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価 ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する																			
長期休み	■学年始:3月5日～4月4日 ■夏季:7月28日～8月28日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月5日～4月2日		卒業・進級 条件 所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。																			
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動 ■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動: 有																			
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 楽器店		主な学修成果 (資格・検定等) ※3 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピアノ調律技能検定 2級</td> <td>②</td> <td>13人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ピアノ調律技能検定 3級</td> <td>②</td> <td>28人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ピアノ調律技能検定 2級	②	13人	11人	ピアノ調律技能検定 3級	②	28人	19人				
	資格・検定名	種別					受験者数	合格者数														
ピアノ調律技能検定 2級	②	13人	11人																			
ピアノ調律技能検定 3級	②	28人	19人																			
■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生斡旋 ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 20 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 95 % ■卒業生に占める就職者の割合 95 % ■その他 95 % (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年3月1日 時点の情報)																						
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2 % 令和1年5月1日時点において、在学者47名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月6日時点において、在学者46名(令和2年3月6日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神的な病気 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。																					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																					
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																					
当該学科の ホームページ URL	http://www.chubugakki.ac.jp																					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

出希望者について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携してい

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月19日 17:00～18:00

第2回 令和3年2月10日 17:00～18:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

基本技術は基より人間性を育てて欲し。調律実技で「4Hz」と「2Hz」の他に「半音低下」を入れたらどうか？現場でよくあるし、大きなピッチを変更する際の良い勉強になるのでは？

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

現役のピアノ調律師からピアノの調律の基礎について学ぶ。実習では、実際に使用されている様々な種類のピアノを使用しそれぞれの特性に応じた調律方法、技術習得を図る。

実習前に実習講師と校内の教員が授業の方法、内容等の打ち合わせを行い、実習内容や生徒の学修成果の評価方法について定める。

実習期間中は、学生の実習実施状況や進捗状況等を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
調律実技(基礎)	ユニゾン合わせを行う中で、基本姿勢、工具の使い方、音の合わせ方の基礎を学ぶ。	木村ピアノ工房
調律実技(オクターブ・ユニゾンⅡ)	各音域ごとに正しいオクターブを作り、検査により自ら精度のチェックができるようになる。	木村ピアノ工房

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科 実技研修」(連携企業等:株久米)

期間:6月3日(土) 対象:ピアノ調律科

内容:教員の制度UPをはかるためにより響きのよい音程をさぐる

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」(連携企業等:株ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

期間:5月～3月 対象:全学科

内容:コロナウィルス感染症の影響で中止

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ピアノ調律科実技研修」(連携企業等:株久米)

期間:12月4日(土) 対象:ピアノ調律科

内容:整音・整調のスペシャリストを招いての勉強会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:株ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

期間:5月～3月 対象:全学科

内容:2018～2019年にかけて習得したID(インストラクショナルデザイン)の基礎的な知識と技能をより定着させるための実践トレーニングを、研究授業を通じて行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。

自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・委員からは中部楽器技術専門学校を卒業したら、ここが優れてるといった特色を出してほしい。技術者として即戦力になってもらえるような学生の排出というあった。

・社会適応力が弱い学生が多いので精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	地域住民
梶田 詩織	(株)ピュッフェ・クランボン 営業部チーフ	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:3年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標

(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ピアノ調律学科) 令和02年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			調律実技(基礎)	調律作業における基本姿勢、工具の使い方、音の合わせ方の基礎を学ぶ。	1前	134	4			○	○		○		○
○			調律実技(割振Ⅰ)	平均調律音階の構造を理解し、各音程(4度、5度)を定められた幅で作ることを学ぶ。また検査確認(長3度)により、自ら精度をチェックすることを学ぶ。	1通	76	2			○	○		○		○
○			調律実技(割振Ⅱ)	正しい平均律割振を定められた時間で作り、ユニゾンに合わせても割振精度を保てる様な、音の合わせ方を学ぶ。	2通	40	1			○	○		○		
○			調律実技(オクターブ・ユニゾンⅠ)	各オクターブを、第1次共通倍音を聴き、正確に1200セントを取れる合わせ方を学ぶ。加えて、ユニゾンに合わせても、オクターブが狂わない「止め」を学ぶ。	1通	312	10			○	○		○		
○			調律実技(オクターブ・ユニゾンⅡ)	音域ごとに正しいオクターブを合わせ、精度チェックをできる検査方法を学ぶ。	2通	60	2			○	○		○		○
○			調律実技(4Hz変更1台仕上Ⅰ)	4Hzの変更をして1台を仕上げることで、効果的な粗律での唸りづけ量、本律時の止めを学び、定められた時間内に調律ができる事を目指す。	1後	130	4			○	○		○		
○			調律実技(4Hz変更1台仕上Ⅱ)	粗律と本律を行う中で、各音域のオクターブ幅と全体のバランスの取り方、止め方を学び、定められた時間内に調律を仕上げる事を目指す。	2通	230	7			○	○		○		
○			GP調律	GPの調律もUPと同様に仕上げられる様に、各オクターブの取り方とユニゾンの合わせ方、バランスの取り方を1台仕上げを通して学び、精度を上げる。	2通	110	3			○	○		○		
○			UP整調(基礎)	UPの打弦機構の構造を知り、各工程を基準寸法に合わせる方法を学ぶ。	1通	82	2			○	○		○		
○			UP整調(応用)	不良のあるアクションを、自ら問題箇所を見つけ定められた時間内で、正常に動作させる調整を学ぶ。	1後2通	92	3			○	○		○		
○			GP整調	GPの打弦機構の構造を知り、各工程を基準寸法に合わせる方法を学ぶ。	1後2通	74	2			○	○		○		

○		基本修理	各フェルト、クロス、弦など、1つ1つの部品を正確に交換する技術を学ぶ。	1通	110	3			○	○		○		
○		応用修理	フレンジコード全交換や鍵盤ブッシングクロス交換など1台にわたる修理を、手早く行う技術を学ぶ。	2通	63	2			○	○		○		
○		リビルド	中古査定、作業計画から、ピアノクリーニング全般を行い、リビルド作業の流れを具体的な方法を学ぶ。	2通	70	2			○	○		○		
○		調律理論	音の性質、音律など、ピアノに関わる音の構成について学ぶ	1通 2前	44	2	○			○		○		
○		整調理論	UP、GPの各部品名称と打弦機構の構造を学ぶ	1・2通	74	4	○			○		○		
○		修理理論	各フェルト・クロス、木材・金属の性質を知り適切な材料を学ぶ	1・2通	64	4	○			○		○		
○		業界ビジネス	製造、商社、小売など楽器を扱う形態を学ぶ。販売、需要促進、音楽普及活動など、楽器店の仕事内容を学ぶ。	1・2通	86	5	○			○			○	
○		ピアノ演奏	アルペジオで調律後の響きを、半音階で整調後のタッチを確認できる様、両方の演奏力を学ぶ。	1・2通	11	2			○	○			○	
○		総合実践力	ピアノ構造、発達史、商品知識を学ぶ。営業話法、ピアノの状態チェックを学ぶ。それぞれを統合し顧客対応を学ぶ。	2通	30	2	○			○		○		
○		総合実践力(実技)	調律・整調・修理・整音・構造・各知識を統合し、顧客ニーズや各ピアノに必要とされる仕事を判断する技術を学ぶ。	2通	40	1			○	○		○		
○		楽器知識	管楽器、弦楽器、打楽器、有鍵楽器など楽器店で取り扱う楽器全般の歴史や構造を学ぶ。	1通	48	2	○			○			○	
○		音楽教養	楽典(楽譜の読み方、記し方)を学ぶ。バロック、古典～近代までの音楽家とその代表作を学ぶ。	1通 2前	64	4	○			○			○	
○		国際音楽情報知識	ヨーロッパのクラシック音楽文化を学ぶ。有名ピアニストの知識を学ぶ。	1・2通	44	2	○			○			○	
○		音楽美学(特別講義)	歌劇(オペラ)の解釈と楽しみ方、有名曲について学ぶ	1・2前	16	2	○			○			○	

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化教養専門課程	音楽器リペア科	平成六年文部科学省 告示第84号																							
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
2	2268時間	742時間	0	0	0	1526時間																				
生徒数	生徒数	留学生数(生徒数の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
60人	108人	1人	5人	6人	11人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する																						
長期休み	■学年始:3月5日～4月4日 ■夏季:7月28日～8月28日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月5日～4月2日		卒業・進級 条件	所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																						
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 楽器店 ■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生斡旋 ■卒業生数 53 人 ■就職希望者数 50 人 ■就職率 96 % ■卒業生に占める就職者の割合 91 % ■その他 ・進学者数:3人 (令和元年度卒業生に関する 令和2年3月1日時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヤマハ技術評価</td> <td>③</td> <td>4名</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ヤマハ技術評価	③	4名	4名												
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																							
ヤマハ技術評価	③	4名	4名																							
中途退学 の現状	■中途退学者 9 名 令和1年5月1日時点において、在学者110名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月1日時点において、在学者101名(令和2年3月6日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。		■中退率 8.2 %																							
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	http://www.chubugakki.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携してい

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月19日 17:00～18:00

第2回 令和3年2月10日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

河合楽器の養成所やヤマハアカデミーでは、入学して直後は理論や構造の授業が多い。学校も取り入れてはどうか。技能検定への準備は良くできているが、検定合格がゴールではなく調律師として活躍することを忘れないでほしい。マナーや服装などの指導もお願いしたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
フルート調整・メンテナンス	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。フルートの調整・メンテナンスを通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
クラリネット調整・メンテナンス	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。クラリネットの分解、組立て、コルクの効果を通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
サクソフーン調整・メンテナンス	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。サクソフーンの調整・メンテナンスを通して管楽器修理のあり方を学ぶ。	管楽器工房Geppetto
クラリネットタンポ交換	管楽器修理を行う上での技術的な事を学ぶ。クラリネットのタンポ交換を通して基礎的な事を学ぶ。	管楽器工房Geppetto

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「管楽器リペア科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)

期間:2020年6月20日(土) 対象:管楽器リペア科

内容:クラリネットの鳴りについて悪い鳴りの直し方や見つけ方を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」(連携企業等:(株)ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

期間:5月～3月 対象:全学科

内容:コロナウィルス感染症の影響で中止

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「管楽器リペア科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)

期間:2021年8月2日(月)、3日(火) 対象:管楽器リペア科

内容:オーボエのタンポ調整、バランス調整を学び、細やかな塞ぎを確実に出来るようにしていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:(株)ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)

期間:5月～3月 対象:全学科

内容:2018～2019年にかけて習得したID(インストラクショナルデザイン)の基礎的な知識と技能をより定着させるための実践トレーニングを、研究授業を通じて行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。
自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・委員からは中部楽器技術専門学校を卒業したら、ここが優れてるといった特色を出してほしい。技術者として即戦力になってもらえるような学生の排出いらうあった。
- ・社会適応力が弱い学生が多いので精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	地域住民
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランポン 営業部チーフ	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:3年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標

(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程管楽器リペア学科) 令和01年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			クラリネット調整・メンテナンス	クラリネットの構造を理解し、タンポ以外の部品の交換・調整を行い、楽器として最良の状態にする技術を習得する。	1前・2後	162	5			○	○		○		○
○			クラリネットタンポ交換	クラリネットの構造とタンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。	1前・2後	132	4			○	○		○		○
○			フルート調整・メンテナンス	フルートの構造を理解し、タンポ以外の部品の交換・調整を行い、楽器として最良の状態にする技術を習得する。	1通・2前	123	4			○	○		○		○
○			フルートタンポ交換	フルートの構造とタンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。	1通・2前	135	4			○	○		○		○
○			サクソフーン調整・メンテナンス	サクソフォーンの構造を理解し、タンポ以外の部品の交換・調整を行い、楽器として最良の状態にする技術を習得する。	1後・2後	147	4			○	○		○		○
○			サクソフーンタンポ交換	サクソフォーンの構造とタンポの特徴を理解し、早く美しく確実に音孔を塞ぐ技術を習得する。	1後・2後	133	4			○	○		○		○
○			木管総合修理	楽器の状態を把握し、最良の状態にするための手段的確に判断し、これまで習得した内容を駆使し修理・調整を行う。	2後	88	2			○	○		○		○
○			金管修理ⅠⅡ(メンテナンス)(溶接)	トランペット・ホルン・トロンボーンの構造を理解し、技術者レベルのメンテナンスを習得する。楽器にダメージを与えず、美しく確実なはんだ溶接を習得する。	1前	90	3			○	○		○		
○			金管修理Ⅲ(凹出し)	様々な場所の色々は凹みに対して最適な治工具を選択し、速く美しく元の状態に戻す技術を習得する。	1通	80	2			○	○		○		
○			金管修理ⅣⅤ(抜差管調整)(ピストン調整)	抜差管やピストンの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1後	60	2			○	○		○		
○			金管修理Ⅵ(トロンボーンスライド調整)	トロンボーンのスライドの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1後・2前	60	2			○	○		○		

○		金管修理Ⅶ (ホルンロータリー調整)	ホルンのロータリーの構造を理解し、動作不良に対して適切な処置を行い、最良の状態にする技術を習得する。	1後・2前	60	2			○	○		○		
○		金管修理Ⅷ(部品交換)	部品を交換し、調整を行いながら溶接によって最適な状態にする技術を習得する。	2前	80	2			○	○		○		
○		金管修理Ⅸ(総合修理)	検品・見積・修理までをトータルで行う。	2通	122	4			○	○		○		
○		楽器演奏FL	フルートの正しい奏法を理解し、試奏による検品や初級・中級者に向けて奏法のアドバイスができる技術を習得する。	1前・2後	2	1			○	○			○	
○		楽器演奏CL	クラリネットの正しい奏法を理解し、試奏による検品や初級・中級者に向けて奏法のアドバイスができる技術を習得する。	1前・2後	2	1			○	○			○	
○		楽器演奏SAX	サクソフォーンの正しい奏法を理解し、試奏による検品や初級・中級者に向けて奏法のアドバイスができる技術を習得する。	1前・2後	2	1			○	○			○	
○		木管修理理論	木管楽器全般の構造や修理技術を理論として系統だてて学ぶ	1・2通	146	9	○			○		○		
○		金管修理理論	金管楽器全般の構造や修理技術を理論として系統だてて学ぶ	1・2通	128	8	○			○		○		
○		管楽器学	管楽器それぞれの構造・歴史・種類について学ぶほか、代表的メーカー・プレイヤー・教本・レパートリー、または管楽器の製造法について学ぶ	1通	60	4	○			○		○		
○		演奏知識	金管楽器の奏法について、プレイヤーの立場から理解し、楽器や奏法について個別にアドバイスのできる知識を習得する。	2通	54	3	○			○			○	
○		業界ビジネス	管楽器に関わる製造・卸・小売・工房の4つの業種について学ぶとともに、実際の販売の現状を知識として学ぶ。	1・2通	60	4	○			○			○	
○		商品知識	管楽器に関わる商品をピックアップし、個々又はグループで調査し、その結果をプレゼンテーションし共有することで、プレゼン能力や商品知識を学ぶ。	1・2通	60	4	○			○			○	
○		楽器知識	鍵盤楽器、弦楽器、打楽器、有鍵楽器など楽器店で取り扱う楽器全般の歴史や構造を学ぶ。	1通	34	2	○			○			○	
○		音楽教養	楽典(楽譜の読み方、記し方)を学ぶ。バロック、古典～近代までの音楽家とその代表曲を学ぶ。	1通 2前	64	4	○			○			○	

○		音楽美学(特別講義)	歌劇（オペラ）の解釈と楽しみ方、有名曲について学ぶ	1・2前	16	2	○			○			○	
○		ホームルーム	あいさつ、グループワーク、QCDについて学ぶ。合宿、工場見学などの事前準備を行う。	1・2通	120	2	○			○		○		
○		ビジネスコミュニケーション	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。」	1通・2前	48	3			○		○	○		
	○	卒業前研修	個人の技術向上や、内定企業で実際の職務を体験し、卒業後に即戦力として活躍できる下地をつくる。	2後	160	5			○		○	○		
合計			29科目	2268単位時間(92単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	19 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由比通3-13-6 (電話) 052-741-6788																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由比通3-13-6 (電話) 052-741-6788																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	文化教養専門課程	弦楽器製作科ギタークラフトコース	平成六年文部科学省 告示第84号																							
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																									
認定年月日	平成27年2月17日																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																			
2 年	昼間	2310時間	606時間	0	0	0	1704時間																			
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
60人	12人	0人	1人	4人	5人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価																							
長期休み	■学年始:3月5日～4月4日 ■夏季:7月28日～8月28日 ■冬季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月5日～4月2日		卒業・進級 条件																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動																							
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 楽器店		主な学修成果 (資格・検定等) ※3																							
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生幹旋																									
■卒業生数 7 人 ■就職希望者数 7 人 ■就職者数 7 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他		■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>修得</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	修得	受験者数	合格者数																
資格・検定名	修得	受験者数	合格者数																							
中途退学の 現状	■中途退学者 2 名 ■中途退率 0 % 令和1年5月1日時点において、在学者12名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月6日時点において、在学者12名(令和2年3月6日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科の ホームページ URL	http://www.chubugakki.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進路未定者について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月19日 17:00～18:00

第2回 令和3年2月10日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

カリキュラムは良い方向に向かっていると感じる。

普段から挨拶の仕方、返答、清掃、整理、整頓がしっかりとできる学生を育成してほしい。今のうちに学生の「ITの思考」を持たせることも大切である。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ギターの修理を営む企業の講師からギターの修理の方法について学び、修理技術の修得を図る。実習前に実習講師と校内の教員が授業の方法、内容等の打ち合わせを行い、実習内容や生徒の学修成果の評価方法について定める。

実習期間中は、学生の実習実施状況や進捗状況等を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。

実習終了時には、実習の講師による生徒の学修評価の意見・評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
リペアⅠ	フレット、ナット等の交換・調整技術を学ぶ	(有)ギターワークス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「弦楽器製作科ギタークラフトコース 実技研修」（連携企業等：ギターワークス）
 期間：7月29日（水） 対象：弦楽器製作科ギタークラフトコース
 内容：ピンルーター使用方法の習得

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」（連携企業等：㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング）
 期間：5月～3月 対象：全学科
 内容：コロナウィルス感染症の影響で中止

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「弦楽器製作科ギタークラフトコース 実技研修」（連携企業等：タカミネ楽器）
 期間：5月20日（木） 対象：弦楽器製作科ギタークラフトコース
 内容：職場見学及び関係分野に関する実践的教育等について意見交換

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。
自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・委員からは中部楽器技術専門学校を卒業したら、ここが優れてるといった特色を出してほしい。技術者として即戦力になってもらえるような学生の排出いらうあった。
・社会適応力が弱い学生が多いので精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	地域住民
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランボン 営業部チーフ	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:3年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標
(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程弦楽器製作学科ギタークラフトコース) 令和01年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ボルトオンギター製作Ⅰ (塗装)	ガンによる吹付、塗装の種類、研磨の方法、磨き上げについて学ぶ。	1前	60	2			○	○		○		
○			ボルトオンギター製作Ⅱ (セットアップ)	ペグ、ブリッジ、ピックガードのマウント、配線、演奏できるようにボルトオンギターの組立、調整を学ぶ。	1前	60	2			○	○		○		
○			ベース製作Ⅰ (ボディ加工)	機械で加工する技術（バンドソー、ルーター、トリマー、サンダー）の技術習得向上を目指す。	1通	80	2			○	○		○		
○			ベース製作Ⅱ (ネック加工)	ボルトオンベースネックの機械加工（サンダー、トリマー、ルーター、バンドソー）の技術、トラスロッド、グリップ加工を学ぶ。	1通	128	4			○	○		○		
○			ベース製作Ⅲ (塗装)	ガンによる吹付、塗装の種類、研磨の方法、磨き上げのスピード青王ができることを学ぶ。	1通	38	1			○	○		○		
○			ベース製作Ⅳ (セットアップ)	ペグ、ブリッジ、ピックガードのマウント、配線、演奏できるようにボルトオンベースの組立、調整を学ぶ。	1通	36	1			○	○		○		
○			レスポール製作Ⅰ (ボディ加工)	アーチ、ラミネイトボディの木工加工技術（ルーター、トリマー、鉋加工）を学ぶ。	1・2前	100	3			○	○		○		
○			レスポール製作Ⅱ (ネック加工)	セットネックヘッド角度付きの木工加工技術（機械加工、トリマー、ルーター、トラスロッド、グリップ、指板加工）を学ぶ。	1・2前	82	2			○	○		○		
○			レスポール製作Ⅲ (塗装)	塗装の吹き付け、研磨・磨き上げについて学ぶ。	2前	30	1			○	○		○		
○			レスポール製作Ⅳ (セットアップ)	ペグ、ブリッジ、ピックガードのマウント、配線、演奏できるようにレスポールの組立、調整を学ぶ。	2前	36	1			○	○		○		
○			アコースティックギター製作Ⅰ (ボディ加工)	アコースティックギターの側板の曲げ、表板裏板の作り方、プレーミング加工、箱閉じについての加工技術（鉋、のみ）について学ぶ。	2通	140	4			○	○			○	

○		アコースティックギター製作Ⅱ (ネック加工)	アコースティックギターネックの木工加工技術、バンドソー、ルーター、トリマー、の使い方、鉋の使い方、トラスロッド、グリップ、ジョイントの作り方を学ぶ。	2 通	80	2			○	○			○	
○		アコースティックギター製作ⅢⅣ (塗装)(セットアップ)	ペグ、ブリッジのマウント、演奏できるような状態にすることを学ぶ。	2 通	30	1			○	○			○	
○		卒業製作Ⅰ (ボディ加工)	各自の設計したギター／ベースのボディ木工加工技術、外周バンドソー加工、キャビティ、ルーター加工、外周R加工、配線溝加工、曲げ木加工を学ぶ。	2 後	120	4			○	○		○		
○		卒業製作Ⅱ (ネック加工)	各自の設計したギター／ベースのネック木工加工技術、外周加工、ヘッド角、仕込み角、トラスロッド加工、グリップ形状加工、指板加工を学ぶ。	2 後	80	2			○	○		○		
○		卒業製作Ⅲ (塗装)(セットアップ)	各自の設計したギター／ベースの塗装、セットアップ技術。塗装の吹きつけ、研磨、パーツ組み込み、ギター/ベースのサドル調整、ネック調整を学ぶ。	2 後	60	2			○	○		○		
○		刃物研ぎ・鉋台調整	刃物(のみ、鉋)の研ぎ方、種類、鉋台の作り方を学ぶ。	1 前	114	3			○	○		○		
○		治具工具製作	テンプレート、モールドの製作について学ぶ。	1 通	70	2			○	○		○		
○		設計・製図	設計と製図の書き方、見方について学ぶ。	1・2 通	200	6			○	○		○		
○		リペア	フレット、ナット等の交換・調整技術を学ぶ。	1・2 通	160	5			○	○		○		○
○		製作理論	ギター製作、ベース製作、アコースティックギター製作のソリッドボディ、箱作りを学ぶ。	1・2 通	100	6	○			○		○		
○		構成論	フェンダー、ギブソン、マーティンの歴史、ソリッドギター、アコースティックギターの構造を学ぶ。	1・2 通	60	4	○			○		○		
○		リペア理論	交換のやり方、調整のやり方について学ぶ。	1・2 通	24	1	○			○		○		
○		電気理論	エフェクター回路、エレキギターの配線、ハンダ付け、ピックアップ使用について学ぶ。	1・2 通	80	5	○			○		○		
○		業界ビジネス	製造、商社、小売など楽器を扱う形態を学ぶ。販売、需要促進、音楽普及活動など、楽器店の仕事内容を学ぶ。	1・2 通	60	4	○			○		○		

○		楽器知識	管楽器、鍵盤器、打楽器、有鍵楽器など楽器店で取り扱う楽器全般の歴史や構造を学ぶ。	1通	54	3	○			○			○	
○		音楽教養	音程、スケール、曲構成、作曲方法について学ぶ。	1・2通	60	2	○			○			○	
○		ホームルーム	あいさつ、グループワーク、QCDについて学ぶ。合宿、工場見学などの事前準備を行う。	1・2通	120	2	○			○		○		
○		ビジネスコミュニケーション	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。」	1通 2後	48	4			○		○	○		
	○	卒業前研修	個人の技術向上や、内定企業で実際の職務を体験し、卒業後に即戦力として活躍できる下地をつくる。	2後	160	5			○		○	○		
合計			31科目	2310単位時間(80単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校名	所在地																
中部楽器技術専門学校	平成1年4月1日	角堀 雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																
学校法人中部学園	平成25年4月1日	理事長 角堀雅信	〒466-0027 愛知県名古屋市中区阿由知通3-13-6 (電話) 052-741-6788																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士 高度専門士																
文化・教養	文化教養専門課程	音楽サービス創造学科	平成18年文部科学省 告示第34号																
学科の目的	楽器の修理・製作のスペシャリストの養成																		
認定年月日	平成27年2月17日																		
修業年限	昼夜	講義	演習																
3	2824時間	1230時間	0																
実習	0	実験	0																
実技	1594時間	単位時間																	
生徒総定員	生徒定員	留学生数(生徒定員の内)	専任教員数																
108人	81人	1人	4人																
兼任教員数	総教員数																		
4人	8人																		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価																
■成績表: 有			■成績評価の基準・方法 期末の学科試験・実技試験の成績に出席率を加味して評価する																
長期休み	■学年始:3月5日～4月4日 ■夏 季:7月28日～8月28日 ■冬 季:12月21日～1月6日 ■学年末:3月5日～4月2日		卒業・進級条件																
		所定の課程を修了すること。講義・実習科目は全て必修とする。筆記試験・実技試験の合格を原則とする。																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 定期的に連絡をとり、必要に応じて本人や保護者同伴で面接を実施する。		課外活動																
		■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 学園祭実行委員、施設等へのボランティア演奏																	
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 楽器店		主な学修成果(資格・検定等)※3																
	■就職指導内容 履歴書指導、個別面談、企業への学生幹旋																		
	■卒業生数: 28 人																		
	■就職希望者数: 28 人																		
	■就職者数: 26 人																		
	■就職率: 93 %																		
■卒業者に占める就職者の割合: 93 %		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																	
■その他		<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ピアノ調律技能検定3級</td> <td>②</td> <td>9人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>舞台機構調整技能士3級</td> <td>②</td> <td>7人</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>日本音響家協会3級技能者</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>		資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ピアノ調律技能検定3級	②	9人	4人	舞台機構調整技能士3級	②	7人	5人	日本音響家協会3級技能者	③	17人	17人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																
ピアノ調律技能検定3級	②	9人	4人																
舞台機構調整技能士3級	②	7人	5人																
日本音響家協会3級技能者	③	17人	17人																
(令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等																	
中途退学の現状	■中途退学者 4 名 ■中退率 4.9 % 令和1年5月1日時点において、在学者81名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月6日時点において、在学者77名(令和2年3月6日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学力不足 ■中退防止・中退者支援のための取組 必要に応じて本人に面談を実施する。																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																		
当該学科のホームページURL	http://www.chubugakki.ac.jp																		

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界の役職員や、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する団体役員と、協同し教育課程を編成する。楽器業界における産業振興の方向性や、新しく身につけるべき知識やスキルを業界に携わる専門家の意見を随時取り入れることにより、自薦的かつ職業教育に適した教育課程の編成、授業内容の改善・工夫を連携していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

教育課程編成委員会は、組織図に記載の通り学校運営会議の下部組織として位置づけられた委員会の一つとして設置し、学校法人中部学園の内部委員と企業関係者委員から成るものとし、互いの意見を十分に活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

教育課程の編成における意思決定として、教育課程編成委員会の意見を、本校のカリキュラム改善委員会に図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体とした教育課程を編成していく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
中村 隆太郎	ナカムラ調律 代表	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
岡田 光史	ビュッフェ・グランポン・ジャパン大阪営業所長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
寺田 章吾	(株)寺田楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
高橋 英二郎	(資)中善楽器 代表取締役社長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	③
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	①
角堀 雅信	中部楽器技術専門学校 学校長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
早川 昌幸	中部楽器技術専門学校 進路指導部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	
中村 大	中部楽器技術専門学校 教務部長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月19日 17:00～18:00

第2回 令和3年2月10日 17:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

グループワークなど少人数で意見を言い考えさせるワークができないか?コミュニケーションをとらないと解答にたどり着けないようにして、チームワーク共同作業の大切さを学ぶ。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

楽器業界が求める人材を、企業等の連携により、実習・演習等の授業を通して身に着けることによって、実践的、専門的なレベルの高い人材を育成することを目指す。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

現役の作曲、編曲家の講師からデスクトップミュージック(DTM)の基礎を学び『CD』を作成する技術の習得をはかる。実習前に実習講師と校内の教員が授業の方法、内容等の打ち合わせを行い、実習内容や生徒の学修成果の評価方法について定める。

実習期間中は、学生の実習実施状況や進捗状況等を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。

実習終了時には、実習の講師による生徒の学修評価の意見・評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
DTM	デスクトップミュージック(DTM)の基礎理論を学び、学生自らDTMソフトを使い、音楽の編集、録音、加工を行い「CD」を作り上げる。	吉澤 俊樹

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上を図る目的として、専攻分野の講師を招き、教員に対し実技に関する知識・技術等を校内で、実施している。また、教員を企業等へ派遣し知識・技術等の研修も行う。さらに、外部団体が主催する研修等にも参加し実践的かつ専門的な知識・技術・技能の向上に努める。生徒及び授業に対する指導力の向上の研修は外部講師を招き校内で実施している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「音楽サービス創造学科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)
 期間:2020/6/20(土) 対象:音楽サービス創造学科
 内容:クラリネットの鳴りについて悪い鳴りの直し方や見つけ方を学ぶ。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力向上研修」(連携企業等:㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:コロナウィルス感染症の影響で中止

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「音楽サービス創造学科実技研修」(連携企業等:管楽器工房GEPPETO)
 期間:2021年8月2日(月)、3日(火) 対象:音楽サービス創造学科
 内容:オーボエのタンポ調整、バランス調整を学び、細やかな塞ぎを確実に出来るようにしていく。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「指導力の研修」(連携企業等:㈱ヒューマン・キャピタル・コンサルティング)
 期間:5月～3月 対象:全学科
 内容:2018～2019年にかけて習得したID(インストラクショナルデザイン)の基礎的な知識と技能をより定着させるための実践トレーニングを、研究授業を通じて行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は、教育活動や学校運営の状況に関する評価を積極的に行い、その結果に基づいて改善を図り、社会にとって必要な人材を育成して行く。
自己点検評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、関係者に対して適切な説明責任を果たしていく。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

・委員からは中部楽器技術専門学校を卒業したら、ここが優れてるといった特色を出してほしい。技術者として即戦力になってもらえるような学生の排出いらうあった。
・社会適応力が弱い学生が多いので精神を鍛えるようなことを取り組んで欲しいとの依頼があった。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
矢木 敏喜	(株)矢木楽器 代表取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業役員
松石 奉之	愛知県楽器商組合 組合長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等役員
鈴木 武裕	(株)愛知銀行 執行役員	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	地域住民
梶田 詩織	(株)ビュッフェ・クランポン 営業部チーフ	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:www.chubugakki.ac.jp

公表時期:3年3月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

平成19年度より学校教育法第133条、第134条第2項において準用する第42条及び同法施行規則第189条、第190条において準用する66条、68条により、学校自己評価の実施公表は実施することが義務付けられました。これに伴うかたちで本校では、平成26年度より学校自己評価委員会を立ち上げました。また、平成26年度より学校関係者評価に関するシステムの構築も手掛けています。

自己点検を行うことで、更なる教育水準の向上に努めるよう工夫していきます。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標

(2)各学科等の教育	学校運営
(3)教職員	学校運営
(4)キャリア教育・実践的職業教育	学修成果
(5)様々な教育活動・教育環境	教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生支援
(7)学生納付金・修学支援	学生の受け入れ募集
(8)学校の財務	財務
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	0
(11)その他	0

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL:www.chubugakki.ac.jp

授業科目等の概要

(文化教養専門課程音楽サービス創造学科) 令和02年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			鍵盤楽器概論	鍵盤楽器の種類・歴史・構造・メンテナンス方法を学ぶ。	1・2通	80	5	○			○		○		
○			鍵盤実技	調律・整調・修理の基礎理論と技術を学ぶ。	1・2通	120	4			○	○		○		
○			管打楽器概論	管打楽器の種類・歴史・構造・メンテナンス方法を学ぶ。	1・2通	80	5	○			○		○		
○			管打楽器実技	管打楽器のメンテナンス・掃除・簡単な修理技術を学ぶ。	1・2通	120	5			○	○		○		
○			弦楽器概論	弦楽器の種類・歴史・構造・メンテナンス方法を学ぶ。	1・2通	80	5	○			○		○		
○			弦楽器実技	工具と取扱いから、木工技術を学ぶ。	1・2通	120	5			○	○		○		
○			楽器演奏	個人の演奏技術から、アンサンブルや合奏での技法を学ぶ。	1・2通	160	5			○	○		○		
○			小物楽器知識	教育楽器から民族楽器までの種類・歴史・構造・メンテナンス方法を学ぶ。	1・2通	80	5	○			○		○		
○			舞台実務	ホールで使用する音響、照明、台組みなどの概論を学び、基礎セッティングを学ぶ。	1・2通	216	3	○			○		○		
○			舞台実務(実技)	音響、照明、台組みの実施作業を学ぶ。	1・2通						○	○		○	
○			DTM	デスクトップミュージックにおける基礎知識と技術の習得。	2通	60	2			○	○			○	○

○		アートプロデュース	イベントの観点から、音楽関連に着目し、企画、運営、スタッフ実務、舞台の設営・運営を実技を通して学ぶ。	1・2通	80	5			○	○		○		
○		基礎技術	日常的に使用される道具や工具、取り扱いから「モノ作りの基本（礎）技術」を学ぶ。	1通	120	4								
○		音楽教養Ⅰ	1年次は楽典の基礎を学ぶ。	1通	48	3	○			○			○	
○		音楽教養Ⅱ	2年次は作曲家の音楽史を学ぶ。	2前	20	1	○			○			○	
○		ビジネス概論Ⅰ	商業経済をテーマに商品と流通、マーケティングから経済活動の基礎を学ぶ。	1通	48	3	○			○			○	
○		ビジネス概論Ⅱ	企業理念と目標の関係を捉え、マーケティングの戦略手法の必要性を学ぶ。	2通	56	3	○			○			○	
○		英会話	日常会話からビジネスシーンでの英会話基礎を学ぶ。	1・2通	120	8	○			○			○	
○		音楽著作権	音楽に関係する著作と権利の基礎を通して学ぶ。	2前	32	2	○			○			○	
○		小売販売知識	販売の基礎を学ぶ。	1通	48	3	○			○			○	
○		経営戦略思考	現状分析や思考法をフレームワークで学び、着眼点や洞察力を磨いて、問題解決能力を身につける。	3通	32	2	○			○			○	
○		ホームルーム	あいさつ、グループワーク、QCDについて学ぶ。合宿、工場見学などの事前準備を行う。	1・2・3通	120	3	○			○			○	
○		音楽概論Ⅰ	音楽を考える力を学ぶ。個々の作品に込められた「音楽への思い」を解説、演者や作者の表現方法を、映像を通して学ぶ。（美学）	1通	48	3	○			○			○	
○		音楽概論Ⅱ	音楽家の思想や社会的背景を辿り、人物が伝えたかったことや表現したかったことを学ぶ。西洋音楽史、ポピュラー音楽史、東洋音楽史、日本音楽史、ジャズ	1通	48	3	○			○			○	

○		ビジネスコミュニケーション	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。」	1 2 通	40	2			○		○	○			
	○	ピアノ調律実技	各々が専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）を選び、各コースの精度の高い技術を身につける。	3 通	600	20			○	○		○			
	○	ピアノ調律理論	各々が選んだ専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）の深い理論と知識を学ぶ。	3 通	200	13	○			○		○			
	○	木管修理実技	各々が専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）を選び、各コースの精度の高い技術を身につける。	3 通	600	20			○	○		○			
	○	木管修理理論	各々が選んだ専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）の深い理論と知識を学ぶ。	3 通	200	13	○			○		○			
	○	金管修理実技	各々が専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）を選び、各コースの精度の高い技術を身につける。	3 通	600	20			○	○		○			
	○	金管修理理論	各々が選んだ専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）の深い理論と知識を学ぶ。	3 通	200	13	○			○		○			
	○	ヴァイオリン製作・修理実技	各々が専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）を選び、各コースの精度の高い技術を身につける。	3 通	600	20			○	○				○	
	○	ヴァイオリン製作・修理理論	各々が選んだ専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）の深い理論と知識を学ぶ。	3 通	200	13	○			○				○	
	○	ギター製作実技	各々が専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）を選び、各コースの精度の高い技術を身につける。	3 通	600	20			○	○				○	
	○	ギター製作理論	各々が選んだ専門コース（ピアノ、木管楽器、金管楽器、ギター、バイオリン）の深い理論と知識を学ぶ。	3 通	200	13	○			○				○	
	○	鍵盤楽器	商品、構造、査定の知識を学び、メンテナンスや運搬方法を学ぶ。		16	1	○			○		○			
	○	管楽器	管楽器と取扱い方、メンテナンス方法を学び、色々なメーカーの特性を学ぶ。		16	1			○	○		○			
	○	打楽器	各打楽器の保管、メンテナンス方法を学び、皮の張り替え方の実技を知る。		16	1	○			○		○			

		○	ソルフェージュ	音程、音感力を身につけると共に、正確なピッチを学ぶ。		16	1			○	○		○		
		○	舞台実務(応用①)	資格を取得する為の理論と知識を学ぶ。		32	1			○	○		○		
		○	舞台実務(応用②)	機材と結線、マイキング理論と知識を学ぶ。		16	1	○			○		○		
		○	アートプロデュース(Ⅲ)	音響の基礎知識、電気理論、音響機構調整法について学ぶ。		32	2	○			○		○		
		○	アートプロデュース(Ⅳ)	イベントの概要、イベントで使用する機器について学ぶ。		16	1	○			○		○		
		○	LM商品知識	MIDIの基礎を知り、LM、DJの商品知識を学ぶ。		16	1	○			○			○	○
		○	DTM(応用)	2年生までの授業を基に、映像に音を組み合わせ、サンプリングの知識を学ぶ。		16	1			○	○			○	○
		○	弦楽器	ヴァイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスなどの楽器知識、商品知識を深める授業。 パーツの仕組みや、交換方法、弓の毛の種類についても学ぶ。		16	1	○			○			○	
		○	硬筆習字	文字を正しく美しく書く能力、履歴書で自己アピール出来る文字を身に付ける。また、一般財団法人 日本書写技能検定 3級が取得できるレベルである。	3 前	32	2	○			○		○		
		○	ビジネス・スキル	ビジネスマンとしてのコミュニケーション力はもちろん、自己管理能力、自己志向力、協調志向力、基礎ビジネス力を向上し、人間力のアップを目指す。」	3 前	16	1	○			○		○		
		○	卒業前研修	個人の技術向上や、内定企業で実際の職務を体験し、卒業後に即戦力として活躍できる下地をつくる。	3 後	160	5			○		○	○		
合計					40科目	2824単位時間(127単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	19週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。